

第64回関東地区大会 PTA 連合会大会 栃木大会

平成30年7月6日
宇都宮市マロニエプラザ

記念講演 「世界遺産 日光東照宮の謎と真実」

日光東照宮特別顧問 高藤晴俊 氏

高藤氏が行った東照宮の建造物や彫刻の調査、研究の中から、東照宮についていろいろなことを教えてくださいました。

なぜ東照宮は日光にあるのか？「遺体は久能山へ葬り、葬儀を増上寺で行い、位牌は大樹寺に納め、一周忌が過ぎてから日光山に小さな堂を建てて勸請せよ」というのが徳川家康の遺言だとされています。日光は江戸から見て北極星の輝くほぼ真北にあることに大きな意味があったのではとの事。北極星は古代中国で宇宙を主宰する神と認識され、「天子南面す」の言葉通りに北極星を背にして南向きに座し、神と一体となって国をつかさどるとされてきたそうです。

「陽明門」数多く色とりどりの彫刻等があるため、日が暮れて見ても飽きないという理由から「日暮し門」とも呼ばれています。

この門にはたくさんの彫刻が施され、一つに「唐子の知恵遊び」があり、子供たちが遊んだり、喧嘩したりしている様子の彫刻です。これは、「平和」を意味するようで、子供たちが安心して遊べるような社会をとの家康公のご遺訓と受け取れるそうです。

陽明門の柱の一本は「魔よけの逆さ柱」と言って、他とは逆になっています。

「完成された建物はいずれか崩壊する、逆に未完成であれば永遠に崩壊することはない」との言い伝えで魔よけのためだそうです。

「見ざる聞かざる言わざる」の三猿は有名ですが、実は合計八面あり、人の生涯の生き方を教えているとの事でした。ほかにもたくさんのお話をしてくれましたが、印象深いものを挙げてみました。

<感想>

高藤氏の独特の話術に、どんどん引き込まれあっという間に終わってしまった感じです。日光には何度も行ったことがありますが、こんなに興味深く建造物を見たのは初めてです。写真も趣味とのことで、陽明門と北極星とたくさんの星が写った写真はとてもきれいで感動しました。奥が深く楽しい講演でした。参加させていただきありがとうございました。

坂田直美